

ユニフォームの変遷～イギリス文化とその影響～

Shift of uniforms～culture of the United Kingdom and its influence～

1K05B004

指導教員

主査 宮内孝知先生

浅井 紀行

副査 石井昌幸先生

研究の動機、目的、方法

ユニフォームのバランス(例えばエンブレム、スポンサーのロゴ、デザイン)がどんどん変化している。その中でユニフォームは人々の心理や社会的背景やファッション性と様々な要素を映し出すものとして非常に魅力的であった。そしてユニフォームの持つ意味をフットボールの始まりとともに考察し、クラブや社会に与える影響について研究していくことにした。対象はフットボール発祥の地であり、常にフットボールを牽引してきた存在のイギリスである。研究方法については、文献、インターネットから情報収集し、本研究を行うことにした。

第 1 章 ユニフォームの歴史

第 1 章ではユニフォームの歴史を追うことにした。重要となるルールや出来事を年代別に整理し、フットボール発祥時から現在までの流れを見た。当初ユニフォームは決められてはおらず、帽子の色だけで敵と味方を判断していた。その後チームカラーが決まり、20 世紀初頭によく初めてのルールが定められたのである。チームカラーは地域の特色に合うように慎重に選ばれ、後に重要な意味を持つようになる。

1960 年頃までに様々なルールが加えられ、戦後の若者文化により、ユニフォームは流行をさらに追うようになる。1970 年代後半のユニフォームにメーカーのロゴが入り、新たな可能性が生まれた。1980 年代には、ユニフォームにテクノロジーが加わった。1990 年代になるとレプリカユニフォームの時代が訪れる。ユニフォームがより一般的になり、ファッションとしての側面が出てきた。現在

では多くのスポーツメーカーが毎年新作を発表し、ユニフォームが価値を上げたのである。

第 2 章 エンブレムの歴史

第 2 章ではエンブレムの起源を調べ、エンブレムがその後時代とともに役割が変化していくことを追った。そして現在のフットボールにおけるエンブレムの価値やアーセナルのエンブレムを例として具体的な変遷を示した。エンブレムのルーツは中世ヨーロッパにあり、古くは盾がその代わりとなっていた。その後王侯・貴族の権威のシンボルとなったが、王侯・貴族の没落で紋章の権威的価値は低下し、次第に装飾的な意味合いが強くなっていった。また、共同体のシンボルとしてもエンブレムは使われ、現在に至るまでに商標へと変わっていった。そうした経緯から代表やクラブのエンブレムはそのチームを知るのに有効な手段であり、エンブレムを知ることによってチームがわかるのである。ユニフォームの中であって、エンブレムは歴史的背景や伝統、民族的葛藤や地理的問題を教えてくれる有効なアイテムであると考えられた。

第 3 章 社会とユニフォーム

第 3 章では社会の中におけるユニフォームとイギリスの戦後の若者文化を調べ、若者文化とユニフォームの関係性を調べた。社会の中で選手が着るという単なるツールからスタジアムでユニフォームを着ることで、サポーター同士をつなげるツールへと変化をしていき、現在ではフットボールを超えてファッションアイテムとして進化をしてきたのである。ユニフォームは発足当初から流行を追って

いた。イギリスでは、戦後に若者文化が一気に開花し、ユニフォームが今まで以上に流行を追うようになった。戦後の若者文化を細分化し、文化ごとにユニフォームに与えた影響を探り、若者文化とユニフォームには、エンブレム同様に社会から影響を受けると考えられた。

第4章 これからのユニフォーム

ユニフォームは時代を映す鏡のように、フットボ

ールとその背景である社会に反映してきた。社会が変化をしていく限り、ユニフォームはこれまで同様に変化をしていくと考えられた。エンブレムやデザインが変更されようとも、ユニフォームの背景にはクラブに深い関係性が存在した。人々はその背景をあまり気にすることなく、ユニフォームを身に着けている。しかし、ユニフォームには人々を惹きつける理由が存在するのであり、今後さらに繁栄していくと結論付けた。